



「どんな“おもちゃ”を買ってあげていますか？」

今回は、1歳前後の子どもにどんな“おもちゃ”がいいか紹介しようと思います。

まず、おもちゃを紹介する前に**1歳頃の発達特徴**を考えてみましょう。

- 5～6ヶ月頃に可能となった寝返りやすり這いの移動手段を用いて活発に外界に働きかけることで、さらに四つ這い移動や歩行を獲得し行動範囲を広げていきます。
- お座りが安定し、手指を用いて周囲の物を操作することで、手指の巧緻性が高まると同時に、物と物の関係性を理解するようになります。物事の内容を発達させ、周囲のものが意味あるものとして存在するようになってきます。
- “ことば”においては、喃語を話し始め、発声がよく聞かれるようになってきます。よくお話する子どもは周囲の人の言葉を真似て“バイバイ”“ねんね”などを言ったり、2語文（マンマちょうだいなど）を話すようになります。
- 人見知りが見られるのもこの時期です。“初めて出会う人”“初めての場面”をととても警戒し親に隠れています。徐々に慣れると初めての人でも少し遊べることもあります。
- 自己主張が見られるはじめるのもこの時期で、子どもは自律的に一人の個人として行動しようとする傾向もみられるようになってきます。
- 遊びは、これまでのおもちゃを使った遊びから、身の回りにある生活道具を親の真似をしながら遊ぶことがよく見られるようになります。

子どもの発達に応じた遊びとおもちゃ

歩行を獲得するこの時期は、体をダイナミックに動かす遊びが大好きで、トコトコと走り回ったり、少し高い台によし登ったり、お父さんの高い高いやぐるぐる回しなどをとても喜びます（図1）。

一方で8ヶ月頃に、物と物の関係性を理解するようになり、周囲に対して感じる遊びから、物を操作して遊ぶようになってくると、おもちゃも“手に取るおもちゃ”から“操作して遊ぶおもちゃ”が好きになってきます（図2）。

さらに、親の行動をよく観察しており、親の真似をしようとするので、食事などの生活動作を自分でしようしたり、食器、鍋の出し入れや洗濯物をカゴに入れたりなど簡単なことを一緒にお手伝いしようとするので、失敗してもいいので子どもに経験させたり、子どもを手伝ってできるようにするといった生活場面のなげない行動が遊びとなります（図3）。この際に、子どもができた褒めてあげるとさらに繰り返しようとする。1歳頃になると“ことば”を発するようになり、周囲の“もの”“行動”を「ことば」で表現するようになりますので、子どもの未熟な表現（マンマ、ワンワンなど）でも、子どもの“はなし”や“訴え”をよく聞いて子どもの表現する言葉自体をオウム返し（マンマほしいの？ワンワンいるね！など）してあげると、子どもはさらに「ことば」を使おうとします。

以上、1歳頃の子どもの様子をまとめてみました。この時期は特別なおもちゃが必要というより生活経験すべてが遊びとなりますので、子どもの主張をよく汲み取りながら一緒に遊ぶことが大切になってくると思います。

（文責：浪本正晴）



図1 高い高い



図2 入れてみるおもちゃ



図3 生活動作の模倣